

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業では、家族をどうとらえるか、これまでの研究知見による見方を学び、家族心理学への理解を進めます。また、家族がどのように生まれ、育ち、変遷していくのか、さらに各段階にはどのような臨床的問題が生じるのかという家族ライフサイクルとしての視点からも理解を深め、スクールカウンセラーとして、学校臨床や不登校支援の実務経験を活かし、事例考察や模擬家族療法を通して具体的な支援技術や問題省察の方法を学べるようにします。

授業では講義に加えてワークを所々で実施しながら実践的な学びを展開するため、積極的に参加してくれることを望みます。指定したテキストに沿って基本的には進めるが、担当者が加えて重要と考える内容や受講生からのリクエストも加味するため多少前後することはあります。

授業計画

第 1 回	授業のガイダンス、 家族の発達と家族システム理論—家族をどうとらえるか
第 2 回	家族を理解するための鍵概念—家族をどう見立てるか
第 3 回	独身の若い成人期 1—愛情関係の形成と家族づくりの前にやっておきたいこと
第 4 回	独身の若い成人期 2—恋愛学と異性間の関係作りの現状
第 5 回	結婚による家族の成立期—夫婦としての絆づくり
第 6 回	離婚に関する現状と課題—離婚を招く夫婦の特徴とは
第 7 回	乳幼児を育てる段階—「親になる」とは
第 8 回	小学生の子どもとその家族—子育て期のエアポケット
第 9 回	若者世代とその家族—子どもたちの巣立ちの時
第 10 回	家族をめぐる問題の事例考察①—思春期の問題・不登校・社会的ひきこもり
第 11 回	家族をめぐる問題の事例考察②—子育てをめぐる問題・虐待・社会的養護
第 12 回	模擬家族療法①—家族療法入門と家族アセスメント
第 13 回	模擬家族療法②—解決志向アプローチとナラティブセラピー
第 14 回	老年期の家族—老いを迎える家族
第 15 回	近年の家族の問題—理想の家族像がもたらす弊害と近未来の家族
第 16 回	筆記試験

到達目標

対人援助や教育の現場で家族を理解し支援するために、必要な知識や理論を習得する。
家族援助の現場で用いられる家族療法の基本的な技術や理論を体験的に身につける。

履修上の注意

- ・原則 20 分以上の遅刻は欠席、遅刻は 3 回で 1 回の欠席とします。5 回以上の欠席は、成績評価の対象外とします。
- ・小課題やディスカッション課題などを適宜行います。
- ・注意事項について初回の授業時に伝えるため、初回授業には必ず出席してください。

予習・復習

復習を中心に行ってください。授業の復習を身に着けるように心がけてほしいです。

評価方法

授業態度・参加度（30%）、小レポートやペーパー提出（20%）、定期試験（50%）、これらを踏まえての総合評価

テキスト

毎回プリント資料を配布します。必要に応じて参考図書も紹介します。

【全体を通しての参考図書】

家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助—《著者》中釜洋子・野末武義・布柴晴枝・無藤清子（2008）《出版社》有斐閣ブックス